



教職の魅力共創プロジェクトの4年間を振り返り、今後の活動を展望する

成果を土台に未来に向けた魅力共創へ

「教職の魅力共創プロジェクト」は、「未来共創プラン」の戦略3に位置付けて展開をしてきました。「未来共創プラン」を作成するにあたり、教員養成学部の子学生の教員就職率や教員採用試験の倍率の大幅な低下は全国的な傾向であり、中核的な教員養成大学として、教職の魅力を見直し新たな魅力を社会と共に創り出し、教職の魅力を高めていくことは本学の使命であると強く思い重要戦略として位置付けています。

まず、私を含め現在20名の教師と2名の学生インタビュー動画を公開しています。教師を目指す中高生や学生の皆さんにぜひ視聴してもらいたいと思います。また、叢書「新たな学び・学校のかたち」を「社会共創編」は3巻発行し、年齢で言うと学生世代から70歳代の方まで、北は宮城県から南は大分県・佐賀県までの県外の方も20名近く執筆いただきました。「教科領域編」もそれぞれ特色のある社会科学編、保健体育科編、幼児教育・生活科編と3巻発刊できました。様々な方々にアンケート調査を実施し分析を進めています。多様な登壇者や参加者によるシンポジウムも毎年開催しています。特に、今年度は「こどもまんなかシンポジウム」と銘打って、小学生から高校生そこに大学生も加わって、未来の教育について熱く語り合いました。この間、プロジェクトに参加いただいた皆様や学内のスタッフの皆様にご心より感謝いたします。

これからの展望ですが、一つはこれまで進めてきたように、戦略1「子どもキャンパスプロジェクト」とも連携しながら、子どもたちと共に教職の魅力を考え創り出していきたいと思えます。数年後、数十年後には、彼らが教師となり保護者となり、未来の教育を創っていくわけです。そのベースとなるような考えを、このプロジェクトでの交流を通して、それぞれに抱いてほしいと思えます。

もう一つは、特別支援を必要とする子どもや外国にルーツをもつ子どもなど、子どもが多様化しています。この傾向は強まっています。また、文部科学省も「個別最適化学び」を掲げています。子ども一人一人は違った個性や特性をもっています。それらを良さとして捉え、伸ばしていく学びを展開したり、学校を運営したりすることを、これからの教職の魅力と捉えることのできるような企画を考え展開していきたいと思えます。一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

愛知教育大学 学長 野田 敦敬

「共創」という言葉に込められた意味とは？

愛知教育大学の中長期ビジョンである「未来共創プラン」や、戦略3「教職の魅力共創」プロジェクトなどでは、「共創」という言葉が使われています。なぜ、教職の魅力を「共創」するのでしょうか。「共創」という言葉に込められた意味について考えてみたいと思えます。

「共創」とは、人と人が文脈を共有し、相互交流し、助け合いを学び、共に成長していく関係を構築することを通じて、意味を創出し、価値が生まれることを意味します。他者を自己に取り込んで共創的な対話を行うことにより、今までにない観点からの知識を生み出すことを意図しています。「共創」するためには、「場」を形成することが重要です。知識創造理論を世界に広めた野中郁次郎(2002)は、異なった価値観を持った人間が「場」を通じた相互作用で対立を乗り越え、知の創造過程を生み出すための「よい場」の条件として、以下の4点をあげています。

- (1) 主体的意志と能力を持つ人で構成される、自己組織化された時間空間
- (2) 開かれた(浸透性のある)境界と関係性
- (3) 多様な背景、視点をもつ人との「弁証法的」対話
- (4) 時間・空間のみならず自己をも超越する

2023年12月23日に開催した「こどもまんなかシンポジウム」では、上記の事項を踏まえ、次の4点について事前準備を行いました。

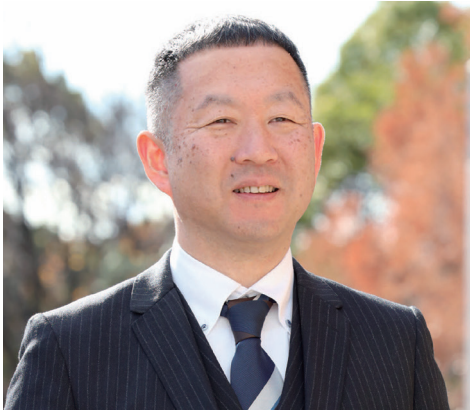
- (1) グループディスカッションの明確な意図や方向性を問いの形で事前に参加者全員に伝え、問題意識を共有することで、主体的な参加意識を高めること。
- (2) 保護者や企業、教育関係者など外部からの参加者を受け入れる寛容さを確保すること。
- (3) 小中高大学生、保護者や企業、教育関係者など参加者の多様性を尊重し、参加者同士の特性や思いを語り合い、共有することから始めること。
- (4) 多様な参加者の思いや考えを引き出し、参加者が自己を見つめ直すことを可能にするために、各グループに一人ずつファシリテーターを配置すること。

「こどもまんなかシンポジウム」では、参加者の多様性を尊重しながら、安心して意見表明ができる「場」をつくることで、楽しさや共感が生まれ、自己を見つめ、真剣に向き合う関係性から、新たな学びを獲得し、自分事として考えを深め、具体的な提案や行動に向けた多様な社会参画の意識を高めることにつながりました。

今後の展望は、「教職の魅力共創」を中核に据えながら、戦略1から9までを有機的に連携させることで、愛知教育大学の魅力を共創し、愛知教育大学で学びたい高校生や大学生、教育関係者が全国から集まり、未来の教育の共創の拠点を構築することです。共創の場づくりには、「時間」と「忍耐」が必要ですが、諦めずに粘り強く取り組んで実現します。

(参考文献:野中郁次郎監修「コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践」翔泳社、2002)

学長補佐(未来共創プラン担当) 真島 聖子



Interview

教職の魅力 インタビュー

子ども、保護者、教職員が安心して、 自分らしさを発揮できる学校づくりを目指して

- 都筑 太 先生
- 知立市立知立東小学校 校長
- 教職26年目(収録時)



インタビュー動画

●●● 日々の学校運営で心掛けていることはどのようなことですか？

子どもが安心して通うことのできる学校、保護者が安心して我が子を通わせることができる学校づくりです。そのために、すべての子どもたち、その保護者に全職員が寄り添いながら丁寧な対応をするようにしています。

また、教職員が自分らしさを発揮できる職場づくりも心掛けています。授業計画や生徒指導などで悩んだときには一緒に考えたり、新しい企画をすぐに実践できる場を設けたりして、気軽に役職者等に相談できる雰囲気が出てきました。役職者が全職員をしっかりとサポートすることで、職員が子どもたちのために、自分のよさを発揮して、思い切ったことができるようになってきたと感じています。

●●● 教師を目指す人、若い教師にどのような学びを積み重ねてほしいと思いますか？

教師の仕事で最も大切なことは、授業です。しかし、授業以外にも様々な仕事があります。学生時代にしかできない色々なことにチャレンジし、人としての自分の価値を高めておきましょう。そして、精神的に強くなってほしいと思います。現場に出たときに、それが一番役立つかもしれません。


また、教師の世界は狭い世界です。社会情勢や海外の教育事情など、広い視野で様々な価値観に触れることが大切です。子どもたちに寄り添った指導や支援をするために、自分の価値観に固執することなく、人の意見に耳を傾け、幅広い教養を身に付けることができるように、謙虚に学び続けてほしいと思います。

Interview

教職の魅力 インタビュー

子ども、同僚との対話と共有で 困難を乗り越える

- 松田 惇 先生
- 知立市立知立西小学校 教諭
- 教職3年目(収録時)



インタビュー動画



●●● 教師になってみて思い描いていた世界とは違ったことは何ですか？ また思ってもみなかった魅力はありますか？

自分が通っていた小学校と現在勤務している小学校の地域が違うので、自分の経験してきたことと子どもたちが取り組むことのギャップがあります。特に学校文化や行事のあり方などが大きく違って、戸惑うことが多いです。

思ってもみなかった魅力は、子どもたちの成長を他者から認められることです。過去に担任した子どもたちが成長した姿を見せてくれたり、「こないない姿があったよ」と他の先生や保護者から話を聞いたりすると、自分が関わって良かったなと思えます。

●●● 教師を続ける中で直面する困難をどのように乗り越えてきましたか？

困難なことがあったときには周りの先生や管理職の先生に相談したり、話を聞いてもらったりするようにしています。その中で解決策を探ったり、指導の方針を考えたりしています。自分の中でとても大変だった一年がありました。冷静に考えたり、落ち着いて対処したりすることができなくて、とても苦しかったです。今、思い返すと当時は「自分がどうにかしなければ」と思い、全部抱え込んでしまっていました。今では、些細な出来事や少し気になったことなど、小さなことでも他の先生と共有しており、そのおかげもあって困難を乗り越えられていると思います。

松田先生と村田先生(3頁掲載)は、本学の旧6年一貫コース(現 教科横断探究コース)の同期としてともに学ばれました。

一人ひとりの子どもに寄り添い、 共により良い社会を創造する

- 三矢 美保 先生
- 高浜市立高浜中学校 教諭
- (教職大学院 児童生徒発達支援コース 特別支援教育系 在学中)
- 教職18年目(収録時)



インタビュー動画



●●● 教職大学院で「通常学級での特別なニーズのある子どもたちへの支援」について研究しようと思ったきっかけは何でしょうか？

これまでたくさんのお子さんと出会う中で、学習面や生活面で困っている子どもたちにうまく声掛けや働きかけができず、支援に悩むことが多くありました。また、現在勤務している中学校で通級指導教室を担当した際、子どもたちのニーズに合った専門性を身に付ける必要性を強く感じました。通常学級で困難を示している生徒たちに寄り添いながら、必要とする支援を行うことができれば、少しでも多くの子どもたちが自分らしく前向きに過ごすことができるのではないかと思います。「通常学級での特別なニーズのある子どもたちへの支援」について研究しようと思いました。

●●● 自分なりに工夫している働き方はありますか？

今子育て中で保育園等のお迎えがあるので、学校に遅くまで残ることができません。学校にいる間は仕事の優先順位を決めて、締め切りがあるものから先にやるようにしています。また、タブレット端末が導入されてからは積極的にICTを活用しています。教材づくりや教職員への配布物などはロイロノートを活用して、できるだけ効率よく仕事ができる働き方を意識しています。

●●● 今後取り組みたい教育活動や目指したい教師像について教えてください。

特別支援教育の視点に立った支援を行い、すべての子どもたちが自分らしく過ごせる教育活動を行いたいです。変化の激しいこれからの社会を強く生き抜くためにも、子どもたちの将来を見据えた、一人ひとりを大切にする教育が必要だと思います。子どもたちに寄り添いながら、子どもたちと一緒により良い社会を創造していく、そんな教師になりたいと思っています。



生徒と教師と一緒に 成長することの魅力

- 村田 圭佑 先生
- 愛知県立尾西高等学校 教諭
- 教職3年目(収録時)



インタビュー動画

●●● 教師になってみて思い描いていた世界とは違ったことは何ですか？ また思ってもみなかった魅力はありますか？

違ったことは、毎日何かしらの出来事が起こることです。けんか、仲たがひ、人間関係の悩み、授業放棄、突然学校を辞めたいと言って欠席するなど、問題となるような行動は最近減ってきましたが、本当にいろんなことが毎日起こります。そういったことに対応するのは大変ですが、生徒の成長を見たり、自分が関与したことで生徒が変わりはじめたりした際にはとても嬉しく思うし、魅力だと感じています。

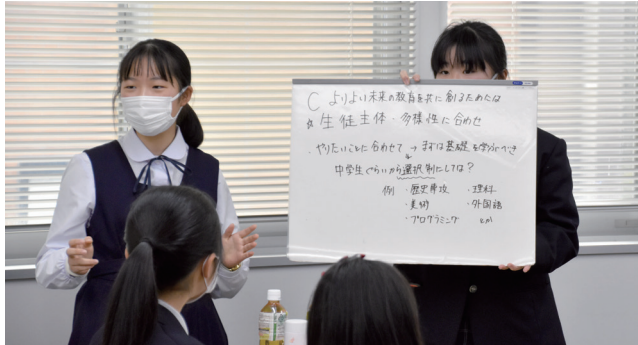
思ってもみなかった魅力は自分ができるようになることがどんどん多くなっていくことです。部活動を生徒と一緒にやって取り組んだり、勉強も生徒と一緒にやっているためです。最近は、テニスができるようになったり、ギターやドラムができるようになったり、パソコンなどの文字変換に頼っていて忘れがちな漢字を復習して漢検の取得を目指したりしています。

●●● 「子どもってすごいなあ」と感じたエピソードはありますか？

控え目な子が多いクラスの中、元気で思ったことをすぐに口にしてしまう性格で、クラスの雰囲気になかなか馴染めず、学校を辞めたいとすぐに言っていた子がいました。しかし、体育祭でのダンス発表をみんなで創り上げ、文化祭で企画を考えていく中で、その子が家でも準備をしていく姿を見せることで、だんだんとクラスに打ち解けていき、合わないけれど楽しく過ごせるといった距離感を見つけることができていました。また、思ったことをすぐに口にせず一度考えるようになったり、周りへの感謝を素直に口にできるようになったりと、子どもってこんなに成長して変わっていくのだと思いました。

「こどもまんなかシンポジウム」を開催

2023年12月23(土)、愛知教育大学教育未来館にて「こどもまんなかシンポジウム」を開催しました。本シンポジウムは、国立大学が未来の教育を共に創るために、子どもの声を聴き、子どもの思いをどのように生かす必要があるのか、参加者と共に考えることを趣旨としています。豊田市、豊明市、みよし市、刈谷市の中学校、愛知教育大学附属高校、附属岡崎中学校、附属名古屋小学校の児童生徒90名を含み、自治体や企業、大学生など総勢で170名の参加がありました。



前半は、21グループに分かれ、本学教職員、院生らがファシリテーターとなり、「どのような先生が良い先生だと思うか?」「どのようなことを学校で学びたいか?」などについて、率直な意見が出されました。「より良い未来の教育を創るためには?」という問いに対して、「AIやコンピューターに依存しすぎない教育」や「多様性に合わせた教育」などといった現代的な課題に迫る意見も多く出されていました。

後半は、これらのグループでのディスカッションを受けて、野田学長の司会のもと、西牟田哲也氏(愛知教育大学附属高校校長)、山本



久美氏(株式会社エスワイフード代表取締役)、山本浩司氏(豊田市教育委員会教育長)、山本かほる氏(愛知東邦大学特任教授)がパネリストとなり、意見が交わされました。その中では、それぞれの立場から、子どもたちの意見を受けて新たに気づかされたことが率直に語られました。こうした、子どもの意見表明や要求に対して大人世代が応答していく関係が学校をはじめ様々な場に広がっていくことがますます求められています。本シンポジウムはその必要性を確認する良い場となりました。



ご案内

叢書「教職の魅力共創」

『新たな学び・学校のかたち(3)』

『幼児教育から小学校教育の魅力共創』を刊行

愛知教育大学「教職の魅力共創」編集委員会(委員長 野田敬敏)では、多様なステークホルダーが「教職の魅力」を共に高め、創り、共有していけるような場として、2021年度より叢書「教職の魅力共創」を刊行しています。今回は『新たな学び・学校のかたち(3)(社会共創編)』と『幼児教育から小学校教育の魅力共創(教科領域編)』の2冊を2024年3月に刊行いたします。ぜひご覧ください。購入については、愛知教育大学出版会のホームページをご確認ください。アマゾンでも購入できます。



(愛知教育大学出版会 各 ¥1,000+税)



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行/
愛知教育大学 未来共創プラン
戦略3 教職の魅力共創プロジェクト



<https://cocreate.aichi-edu.ac.jp>